

館林市子ども・子育て会議委員委嘱状交付式及び平成 29 年度第 2 回館林市子ども・子育て会議 会議録概要

1 日 時 平成 29 年 10 月 16 日 (月) 午後 1 時 30 分～3 時 00 分

2 場 所 文化会館 2 階 3 号室

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 14 名

森委員、永井委員、大谷委員、角田委員、田村委員、倉上委員、荻野委員、鎌田委員、荒川委員、飯塚委員、阪田委員、小澤委員、平林委員、田端委員 (以上名簿順)

【事務局】 10 名

保健福祉部 : 中里部長

こども福祉課 : 石崎課長、妻神子育て支援係長、萩本保育係長、恩田主任、砂賀

健康推進課 : 野澤課長、武政母子保健係長

教育総務課 : 青木課長、武井総括係長

学校教育課 : 川島課長

生涯学習課 : 石井課長

【傍聴者】 なし

4 議 事

(1) 館林市子ども・子育て支援事業計画 (概要説明)

(2) 私立幼稚園の新制度への移行について

(3) その他 子どもの生活実態調査 調査結果報告

5 配布資料

・会議次第

・館林市子ども・子育て会議委員名簿

・資料 1 子ども・子育て支援必須事業一覧

・資料 2 平成 30 年度新制度移行予定園

・別紙 館林市子どもの生活実態調査 調査結果報告書

6 会議内容 (概要)

(1) 開 会

(2) 委嘱状交付

- (3) あいさつ
 - ・須藤和臣市長
- (4) 自己紹介
 - ・委員自己紹介
 - ・事務局自己紹介
- (5) 会長・副会長の選出
 - ・委員の互選により、会長には森静子委員、副会長には永井純一委員が選任された。
- (6) 議 事

①館林市子ども・子育て支援事業計画（概要説明）

- ・事務局より説明 資料1

【質疑応答等】

会 長：市と市民が共に歩む共創社会という視点で事務局説明を聞いていただきたいと思うが、まず子育て支援事業について、利用したかしていないかを含めてお聞きしたい。

委 員：自分が仕事をしている中で、病児保育事業を利用し子どもを預けたいと思ったときがあったが、当日電話で申し込みをするととなると朝バタバタしてしまい、また断られ預けられなかった場合の対応をどうするか等のことを考えると、悩みどころになってしまう。突然預けようと思っても、預けられなかった場合、どうすれば良いのかが分からなくなってしまいます。そこが問題なのではと思っている。

今ネット社会なので、もし可能であれば、預かれるか預かれないかを見られるシステムがあれば、若いお母さん達はそれを見て確認することができるのではと感じたことはある。

会 長：子どもは夜に熱を出す。朝、親が気づいたときには、もう熱が出ている状態。さあどうしようと考えたときに、急におじいちゃん、おばあちゃんに頼もうと思っても、今は働いている方が多い時代なので難しい。委員のサークルでこのような情報はあるか。

委 員：病児保育については、年度初めに申請をする時の書類の量や申請をしていないと利用できないことを考えると、使いにくいという話を聞く。また、具合が悪い子がいる中でお弁当を作らないといけないというのもハードルが高く感じる。

それから、ファミリー・サポート・センターを利用している人も結構多くいるが、預けるのが不安だというママもいる。ちょっとした用事の時に、大人が多くいる中で預けることはできるが、その家庭だけに子ども一人預けて、自分は用事を済ませに行くことはハードルが高いと話すママもいる。そこで、サークルで子どもを見ている時間を作る

こともしている。

委員：私は、ファミリー・サポート・センターで、まかせて会員をしている。やはり色々な要望がある。

一つの事例になるが、上の子を病院へ連れていくため下の子を3時間預かってもらえないかという要望があった。その下の子はまだ1歳ちょっとで、母親から突然離すのは難しいだろうと思われた。

ファミサポには、アドバイザーがいて顔合わせをするが、1歳の子を3時間預かるのは難しいとこちらから話しをする。なぜかという、預けるほうと同様、預かるほうも心配だから。何事も起こらないことが原則で預かるための態勢を整える。まずは、病院に1歳の子をファミサポに預けて受診することを話してもらい、できるだけ短い時間で受診できるようにする。また、どんな子もいきなり預かると泣くので、子どもに顔を覚えてもらうようにする。その後、もう1回顔合わせをする。そして、当日預かる時は、保育園へ迎えに行き、1時間余裕を見てそこで過ごす。それで、家に連れてくると子どもが馴染んでくれる。子どもにトラウマがないように預からないと次がなくなってしまう子育て支援に繋がらない。そうならないよう、預かる方もそのような努力をしている。

それから、お弁当の話だが、今はアレルギーを持っている子どもがたくさんいる中で、こちらが用意したものを食べさせて何かあっては大変なことになる。お弁当は、お母さんの愛情として作ってもらいたい。

会長：サークルに、一度ファミサポの方を呼んで、講演してもらったらどうか。委員が直接行ってお話ししていただけると良いのでは。

委員：まだ子どもが小さくて、頼らなくても大丈夫な方も多いが、実際にお話ししていただけると利用しやすくなると思う。

会長：他にはどうか。

委員：地域包括支援ケアシステムの関係で、生活支援体制整備をすることが求められるが、それには、多様な主体による話し合いが必要となってくる。現在、子育て世代の参加がないため、ぜひ参加をお願いしたいと思う。

②私立幼稚園（常楽幼稚園）の新制度への移行について

・事務局より説明 資料2

【質疑応答等】

委員：新制度が変わって、私達も制度を理解するために勉強会を行ってきた。当時は新聞でも一面に新制度と補助について掲載されていた。

事務局：常楽幼稚園の新制度移行について、ご承認いただけますか。

<委員全員挙手一致>

③その他 子どもの生活実態調査 調査結果報告

・事務局より説明 別紙

【質疑応答等】

会長：事務局より説明があったが、この件については宿題とさせていただき、次回のときに委員の皆様からご意見をお願いできればと思う。

その他、ご意見あるか。

委員：自分の子育て時期を思い出すと、自分にとっては幸せだった。ずっと同じ保育園に入れることができ、職場でも優遇してもらえたり、家では祖母に面倒をみてもらえたり、恵まれた環境だった。

今日の会議に出た子育て支援の内容を、幼稚園に戻って職員や保護者へ伝えていきたい。

委員：子どもが風邪で熱が出てしまったりすると、保育園へ預けることができない。そうすると、職場に直接電話してほしいという母親がいる。今日の会議は、とても勉強になる会議だった。

委員：少子化が課題となっている今、子育て支援を必要としている人が減ってきている。出生数は500人となっている。子育て支援に関する需要と供給を確認していきたい。大変有意義な会議とは思っている。

(7) その他

・次回の会議予定について、2月開催予定

(8) 閉 会